

福島教区報

天理教福島教務支庁

〒960-8022 福島市新浜町7番26号
TEL 024-534-2251 / FAX 024-534-2404

教会数 123ヶ所
布教所数 113ヶ所
よふぼく数 3473人
(R179.12月末現在)

全教「育じ」をいがけず

～一人でも多くのようぼくの実動を～

「人材育成」の大切さをお聞かせいただき、8月末から来年3月まで開催される『後継者講習会』をはじめ、各部各会の様々な行事を通して、子供か

ら大人まで、それぞれの信仰的な成人が求められているこの旬。また、「ご恩報じ」をキーワードに、自らが育ち、育てる努力も求められている。その



ような中、9月の「にをいがけ強調の月」を迎えた。各支部では、何よりのご恩報じであるにをいがけ・おたすけのできる人材が一人でも多く育つ機会となるよう計画を立てて、28日から30日の「ようぼくの実動日」に臨んだ。

いわき支部（木島勇道支部長）では、28日の午後、磐城平大教会に集合。当初は午前からの予定だったが、前日午後から雨が続き、28日の午後には回復するような予報だったため、変更となった。参加者は2組に分かれて神名流しを行いながらいわき駅を目指した。そして、いわき駅前で合流すると、その場で教会長を中心に路傍講演を行い、天理教の教えの一端を道行く人々へ語り掛けた。

29日は内郷地区、30日は小名浜地区で戸別訪問。それぞれにリーフレットを手に、割り当てられた区域で、生かされている喜びを感じつつ、親神様の教えを伝えようと、1軒1軒、丁寧にあわった。（Z・F）

少年ひのきしん隊 本部練成会

立教 180 年少年ひのきしん隊本部練成会に、福島教区団（近藤直光団長）は隊員 9 名（男子 6 名、女子 3 名）、カウンセラー（サブカン含）5 名の計 14 名で、7 月 31 日入隊し 8 月 5 日解隊まで、「ひとのため つくすよろこび ひろげよう」を合言

葉に、おちばで暑い中、ひのきしんに修練にと頑張ってきました。

今年は、皆様のお力添えのおかげで、カウンセラーの数も充実しまして、例年になく隊員の結束力が良く、お互いがたすけ合い、励まし合いながら、期間中楽しく過ごすことができました。中でも、真柱様・大亮様御巡視の際に、行進コンテ



ストで自分達が発表するのをご覧いただいた時に、真柱様に喜んでいただけたことを嬉しそうに話してくれたことがとても印象に残っています。

今年は、未信者

【参加隊員】

福島支部	吉田 優真（1年）
田村支部	荒井 さわ（3年）
耶麻支部	近藤 理渚（3年）
会津支部	山岸 旬丞（2年）
	田村友佑斐（2年）
	荒井維莉哉（1年）
	渡部 紘基（1年）
いわき支部	梅井まりえ（3年）
	上野 真弥（1年）
カウンセラー	斎藤 峻徳（安達）
	平澤 健太（田村）
	生江ゆう大（新河沼）
	平澤 真衣（田村）
	近藤 真由（湖大成）

の隊員が 2 名参加したのですが、「来年も必ず参加します！」と言って、少ひ隊への参加を喜んでいただけたことは、皆様のお力添えのおかげと、感謝申し上げます。今後も少年会活動の上に、また人材育成の上にご指導いただけますようお願い申し上げます。

（N・K）

道の教職員 の集い

「道の教職員 夏の集い」

1名参加

8月7、8日、おちば
で「第60回道の教職員
夏の集い」が開催され、

341名が参加した。福島教区からは1
名が参加した。

井筒梅夫・本部員の「人材育成」
と題した特別講演や、ヒット映画
『64ロクヨン』の脚本を手掛けた、よ
うぶくの久松真一氏の教育講演をは
じめ、グループトーク、実践報告な
どのプログラムで、今年のテーマで
ある「育てる工夫と育てる努力」に
ついて、それぞれが現場で心掛けて
いることなどをお互いに話し合った。
また分科会では、それぞれが選択し
たテーマに関して研鑽を深め、今後
の教育実践に生かそうと、熱心に受
講した。

また今年は、8日に「かんろだい
据え替え事始めの儀」が行われるこ
ととなり、予定を変更して、全員で
参拝させていただいた。
(Z・F)

青年会

「東北ブロック大会」ニヨ岩手

毎年恒例の青年会「東北ブ
ロック大会」。今年は岩手県に
ての開催でした。福島教区か
らは青年会員11名、女子青年
2名で参加させていただき、道中も大変
賑やかに楽しく移動できて、ありがたい
次第でございます。

岩手教区では、岩手教区長の講話、会
員の感話、後継者講習会の説明などの座



会があり、
その後、お
楽しみ行
事のボー
リングを
チーム戦
で競い、楽
しく参加
する事が
できまし
た。夜は懇
親会とい
うことで、

宿舎の岩手教区の駐車場にてB
BQ大会やビンゴ大会など、非
常に盛りだくさんの企画をして
いただき、終始和やかに賑やか
に過ごすことができました。

この東北ブロック大会を通し
て会員それぞれが意見の交換を
し、話し合い、おちばから遠く
離れた者同志、新たな教友を見
つけたりと、これから先に繋がる
青年会員を育てていただけたら
この機会は本当にありがたいと
思います。

来年は青森教区の担当です
が、この様に素晴らしい会には、
より多くの会員や女子青年さん
に参加していただける様、にこ
れからもお誘い、お声かけして
参りますので、今後ともお力添
えをいただきますよう宜しくお願い
致します。ありがとうございます。
(N・U)

道の教職員の集い

「教育フォーラム―おぢばの教育を語る」開催

道の教職員の集い（古川善一代表世話人）は、7月2日、福島教務支庁で「教育フォーラム―お

ぢばの教育を語る」を開催、22名が参加した。これは昨年、教会本部より「親里で学ぼう」との打ち出しがあり、福島教区管内のおぢばの学校出身の方々に、おぢばの教育について語っていただき、おぢばへ子弟を送り出す参考にしていただきたいとの思いで開催された。

まず、天理高校を卒業し、現在、天理高校の教員として勤める齊藤元康先生が「おぢばでお育ていただきたい」とのテーマでお話をされた。

続いて、講話に続いて斎藤先生（天理高校Ⅰ部卒）、古川美也子さん（天理高校Ⅱ部卒）、平澤健太さん（天理教校学園卒）、滝幸恵さん（白梅寮卒）、目黒淳さん（元専修科職員）の5名にパネリストとして集まっていた。パネルディスカッションが行われた。それぞれ、福島からおぢ



ばの学校に進学した理由、おぢばでの学生生活の様子、寮での生活、おぢばとは自身にとってどんなところか、「おぢばで学ぼう」との教会本部の打ち出しについて思うことについて、それぞれに話していただいた。（Z・F）

道の教職員の集い

「成人塾」開催

道の教職員の集い（古川善一代表世話人）は、8月16日から17日、福島教務支庁を会場に「成人塾」を開催。学生生徒15名、スタッフ8名が参加した。

参加者は、揃ってお願いづとめをつとめた後、事前に提出したそれぞれの学習計画表に沿って学習が進められた。夏休みの課題や苦手な項目など、分からないところはスタッフに聞きながら熱心課題に取り組んだ。

食事も、参加者全員で協力して準備をし、自分達で作った食事をおいしくいただいた。（Z・F）



学生会

高校生の集い

「まなびば」猪苗代

開催

学生担当委員会（杉澤元和委員長）では、去る8月19日～20日、「磐梯青少年交流の家」に於いて「まなびば」を開催し、高校生1名が参加しました。

昨年に引き続き、少年会との合同行事で、初日はキャンプで、少年会の会員と共に自分達でご飯とカレーを作り、美味しくいただきました。

2日目は、スタッフと「陽気ぐらし」私にできること」をテーマにグループワークや講師のお話を聴きました。実生活の中でお互いに支え合い、たすけあいながら生活をしていること、自分もたすけられ、たすけることができるということを考える貴重な時間となりました。

(K・K)

少年会

「キャンプ錬成会」で自然を満喫

少年会（近藤直光团长）では、8月18日～19日と、国立磐梯青少年交流の家で、少年会員9名、育成会員3名、計12名で、「親子キャンプ」を行いました。

昨年から、学担の「まなびば」と合同、少年会員と大学生や高校生との親睦を深めながら、次世代を担う子供たちがしつかりとお道に繋がってもらいたいとの思いで同時開催を試みています。少年会行事としては、初日は、おつとめ練習や先生方のちよつといい話など聞いたりと教理と学んだら、野外炊飯（カレーライス）で、班ごとの味比べや、夜はスイカ割り等をして親睦を深めました。

2日目は裏磐梯五色沼ハイキングコー



ス（約4キロ）の道を、ゴミ拾いのひのきしんをしながら、様々な沼を巡り歩き、昼食をとってから、松原湖をモーターボートに乗り遊覧で楽しみ、火水風の親神様の懷住まいを満喫し、解散となりました。

来年は、いわき海浜自然の家で、楽しい行事を考えておりますので、今年参加できなかった皆さんも、来年はたくさん参加を待っております。

(N・K)

基礎講座

去る 8 月 19 日
(土) 午後 1 時 30 分
～ 3 時まで郡山市
にある展示、会議、
レセプションの 3
つの機能を融合し
た複合コンベンション施設
「ビッグパレットふくしま」
で開講しました。当日は、
スタッフ 11 名が午前より会
場設置に当たり、受講者の
方々に気持ちよく受講して
いただける様にと笑顔を心



がけ、受入の準備をつとめ
ました。
講座は、ビデオによる天
理教の紹介と講師・増田正
義先生(典日分教会長)に
よるご自身の実体験をもと
に心の持ち方をお話くださ
いました。受講者は 45 名、
その内、初めての受講者は
15 名でした。

一昨年より福島市のテル
サ会場以外でも開講してお
り、これからも一人でも多
くの方々に受講していただ
き、また、にをいがけの手
立てとして基礎講座を活用
していただきますようお願い
致します。(K・K)

天理教基礎講座(福島会場)

12月3日(日)

午後1時30分開講

福島テルサ

講師・生江一行先生

災救隊

副本部長の視察の元、災救隊訓練を実施

福島教区災救
隊(生江一行隊
長)は、9 月
17、18 日の両日
にわたり、本部災救隊(長
谷博一副本部長)の視察を
受けて教区訓練を行った。

初日は、教務支庁ひのき
しんと合同で、台風の迫る
雨の中を、教務支庁境内地
の除草・清掃を午前中行い、
午後は、草刈り機の取り扱
い方の練習を行った。女子
隊を含む 34 名が参加した。
夜は長谷副本部長を囲み、
今までの災害などについて
ねりあいが行われた。

2 日目は、浪江町仮設住
宅がある二本松市安達町運
動場の法面・敷地内の草刈
り・除草を行った。結隊式
で、長谷副本部長が、「無
災害というのが望ましい
が、大難は小難に、小難は
無難に通らせていただけ
るようつとめさせていただ
きたい。」と述べられた後、
九州の災害を例えに挙げて
話され、「有事の際には勇
んでひのきしんに勤しむこ
とが、にをいがけ、おたす
けに繋がる。ひのきしん精
神で訓練に努めて下さい。」
と挨拶された。その後、女
子隊を含む 30 名が、台風一
過の秋晴れの下、心地よい
汗を流しながら作業を行っ
た。解隊式には、生江隊長
が、6 年間この地で訓練す
ることができ、仮設住宅に
住んでおられる方々に感謝
し、ここで学んだ色々な絆
や出会いにお礼を述べて挨
拶をした。その後、田村副
自治会長さんが謝辞を述べ
られて終了した。(K・K)